

令和7年度

授業計画

Syllabus 2025



日本大学藤沢高等学校

NIHON UNIVERSITY Fujisawa Senior High School



日本大学藤沢中学校

NIHON UNIVERSITY Fujisawa Junior High School



日本大学藤沢中学校

NIHON UNIVERSITY Fujisawa Junior High School

— 第 2 学年 —

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	国語	5	中学2学年 全クラス

使用教科書	副教材
『新しい国語2』(東京書籍)	『常用漢字ダブルクリア五訂版』(尚文出版) 『中学サクセスコーチ国語2年』(学友社) 『まんがで理解 楽しい文法』(とうほう) 『二訂版 カラー 小倉百人一首』(京都書房)

1. 学習の目標

「読む・聞く」「書く」「話す」の三領域の学びを支える言葉の力の基礎を固める。
古典や言葉を通して文法を詳しく学ぶ。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
日本語にまつわる知識や慣習への理解を深めるために、語彙力や情報の調べ方やまとめ方、文法や表現方法の理解といった技能を身につけている。	論理性や共感性など思考や判断に必要な能力を磨くために努力し、自分の考えを分かりやすく他者に伝える力を身につけている。	左記①・②の力を身につけるために目標を考え、計画を立てることが出来る。その計画を振り返ったり、見直したりする過程で他者の意見を取り入れて自身の学びを深めている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス 「短歌を楽しむ」道浦母都子 「字のない葉書」向田邦子	・授業の受け方や勉強の仕方、ノートを取り方などを学ぶ。 ・短歌の技法、ルールについて学び、鑑賞した上で実際に創作する。 ・登場人物のものの見方や考え方について自分の考え方と比べながら読み深める。	定期試験 提出物 小テスト 授業への取り組み
	5	「枕草子」清少納言 口語文法① 問題集 「足跡」瀧羽麻子	・古文にふれることで、単語の意味、文法の知識を広げ、当時の慣習や時代背景を理解する。 ・副教材『楽しい文法』で助詞を学ぶ。 ・問題演習に取り組む。 ・登場人物の言葉や行動から小説の読み方を深める。	
	6	「徒然草」兼好法師 「ネコだって推理できる」高木佐保 口語文法②	・古文にふれることで、単語の意味、文法の知識を広げ、当時の慣習や時代背景を理解する。 ・図表を整理しながら内容を理解する。 ・副教材『楽しい文法』で助動詞を学ぶ。	
	7	漢字検定対策① 問題集	・漢字検定の問題に取り組む。 ・実力試験にむけた問題演習に取り組む。	
2	9	「走れメロス」太宰治 漢文入門と漢詩 「黄金の扇風機」田中真知 「サハラ砂漠の茶会」千住博	・場面の展開や表現の効果について学ぶ。 ・漢文の基本的なルールを知り、漢詩の形式を学ぶ。 ・2つの文章を読み比べて、論の進め方について学ぶ。自分の知識や体験と結び付けて考えを深める。	定期試験 提出物 小テスト 授業への取り組み
	10	口語文法③ 依頼やお礼状を書こう 「鯉節—世界に誇る伝統食」小泉武夫 「メディアの垣根を越えて」	・副教材『楽しい文法』で助動詞を学ぶ。 ・お礼状の書き方を学ぶ。 ・読書の意義を知り、おすすめの本の魅力を紹介し合う。	

	11	「平家物語」 口語文法④ 百人一首大会に向けて	・朗読を通して、古典の世界に親しむ。 ・登場人物の心情を読み取り、武士の生き方について学ぶ。 ・副教材『楽しい文法』で敬語を学ぶ。 ・百人一首大会にむけて小倉百人一首について学ぶ。	
	12	問題集 漢字検定対策②	・実力試験に向けた問題演習に取り組む。 ・漢字検定の問題に取り組む。	
3	1	『正しい』言葉は信じられるか 香西秀信 「私が一番きれいだったとき」 茨木のり子	・事実の述べ方によって読み手に与える印象の違いについて考える。 ・心情が読み取れることばに注意して詩を読む。	定期試験 提出物 小テスト 授業への取り組み ポートフォリオへの入力
	2	口語文法⑤ 古典文法	・副教材『楽しい文法』でまぎらわしい語の見分け方について学ぶ。 ・古典文法の用言について学ぶ。	
	3	問題集	実力試験に向けた問題演習に取り組む。	

- ※ 年間を通じ、『常用漢字ダブルクリア』（尚文出版）を使用して小テストを行い、語彙力を養う。
- ※ 年間を通じ、『サクセスコーチ国語２年』（学友社）や実力テストの過去問題等で問題演習を行い、実践力を養う。
- ※ 年間を通じ、『小倉百人一首』の暗唱を行い、日本の伝統文化に親しみながら１月の百人一首大会に備える。
- ※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
社会	社会	4	中学2学年 全クラス

使用教科書	副教材
『新しい社会歴史』（東京書籍）	『よみとき総合歴史 神奈川県版』（浜島書店） 『中学実力練成テキスト 社会 全』（文理）

1. 学習の目標

歴史的分野からの広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深める。公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを、我が国の歴史と関わりのある世界の歴史と関連付けて理解し、その知識を身につけている。年表や歴史地図、映像など歴史に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して活用するとともに、追求し考察した過程や結果を年表や報告書などにまとめている。	歴史的事実から、課題を見いだし、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断する。社会に見られる課題の解決に向けて、思考・判断したことを説明したり、それらを基に討論する力を身につけている。	歴史的事実に対する関心を深め、それを主体的に追求し、広い視野に立って我が国の文化と伝統について考え、多面的・多角的な考察を通して、自国の国土や歴史に対する親しみ、国民としての自覚を持っている。また、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第1章 歴史へのとびら 1節 歴史をとらえる見方・考え方 第2章 古代までの日本 1節 世界の古代文明と宗教のおこり	・中学の歴史学習の導入として、歴史に対する興味・関心や歴史を学ぶ意欲を高める。 ・古代文明や宗教がおこった場所や環境、農耕の広まり生産技術の発展などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこりについて、古代社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験 出席状況 行動観察
	5	2節 日本列島の誕生と大陸との交流 3節 古代国家の歩みと東アジア世界	・日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和政権による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら日本の国家が形成されていったことを理解する。 ・東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関係について、古代社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。	
	6	第3章 中世の日本 1節 武士の政権の成立 2節 ユーラシアの動きと武士の政治の展開	・鎌倉幕府の成立などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったことを理解する。 ・南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに東アジア世界との密接な関わりを理解する。	

	7		・農業などの諸産業の発達，都市や農村の自治的な仕組み，武士や民衆などの多様な文化の形成から，民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解する。	
2	9	第4章 近世の日本 1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一	・ヨーロッパ人の来航の背景を，新航路の開拓を中心に理解し，鉄砲とキリスト教の伝来を中心に日本の政治や文化に与えた影響を考える。 ・織豊政権下で新たに成立した近世社会の特色を理解する。 ・東南アジアとの貿易，キリスト教への対応，朝鮮侵略を通じ，織田・豊臣の時期の対外関係のあらましを理解する。	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験 出席状況 行動観察
	10	2節 江戸幕府の成立と対外政策	・江戸幕府の成立の経緯と政治制度のあらまし，幕府による大名や朝廷の統制政策を理解し，江戸時代の身分制度と武士・百姓・町人の暮らしに関心を持ち，身分によるきびしい差別があった理由を考える。 ・貿易の振興から鎖国へと対外政策の変化が国内政治に与えた影響と，朝鮮・琉球・アイヌの人々の交流など鎖国体制下の対外関係を理解する。	
	11	3節 産業の発達と幕府政治の動き 第5章 開国と近代日本の歩み 1節 欧米における近代化の進展	・身近な地域の歴史的事象などから，農業など諸産業の発達の様子を理解し，諸産業が発達した理由や影響を考える。 ・幕府の政治改革を取り上げておもな内容を理解し，改革が必要になった理由を考える。 ・華やかな町人文化や地方の生活文化の広がりや，江戸時代の学問の発達の中に，新時代を切り拓く動きが見られることを理解する。 ・欧米諸国における産業革命や市民革命，アジア諸国の動きなどを基に，欧米諸国が近代社会を成立させてアジア進出したことを理解する。	
	12	2節 欧米の進出と日本の開国	・開国から江戸幕府滅亡までの過程を，欧米諸国の動きと関連させて理解する。 ・開国の影響とその後の幕府政治の推移について多面的・多角的に考える。	
3	1	3節 明治維新 4節 日清・日露戦争と近代産業	・明治維新の経緯に関心を高め，意欲的に追究する。 ・明治維新を諸改革の内容を通して理解し，短期間に近代国家の基礎を整えた政府や人々の努力や生活の変化について多面的・多角的に捉える。 ・急速に近代化を進めた日本の国際的な地位の向上と，大陸への帝国主義的進出の経緯を理解する。 ・近代文化が形成されたことを，学問や科学技術で国際的な業績が生まれたことから理解する。	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験 出席状況 行動観察
	2	第6章 二度の世界大戦と日本 1節 第一次世界大戦と日本 2節 大正デモクラシーの時代 3節 世界恐慌と日本の中国侵略	・第一次世界大戦の原因や概要について考え，帝国主義などの背景や現在まで続く民族問題についても関心を持つ。 ・日本の大正時代の様子について，大正デモクラシーや多くの民衆運動を通して調べ，考える。 ・世界恐慌の原因について理解するとともに，各国の対応の違いを考え，ファシズムの台頭について自分の意見を持つ。	
	3		・日本の大陸進出，軍国主義化の経緯を，地図などを用いて具体的に理解する。	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学	5	中学2学年 全クラス

使用教科書	副教材
『これからの数学2』（数研出版）	『体系数学1 幾何編』（数研出版） 『体系数学2 代数編』（数研出版） 『体系数学2 幾何編』（数研出版） 『体系問題集 数学1 幾何編 標準』（数研出版） 『体系問題集 数学2 代数編 標準』（数研出版） 『体系問題集 数学2 幾何編 標準』（数研出版）

1. 学習の目標

中学生として基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
いろいろな場面で数学の果たしている役割を知り、原理や法則、定理、公式を理解し、活用している。	数学的な見方や考え方を身につけ、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。また、対象となる事柄を数学的に考察し、表現あるいは処理の仕方や推論の方法を身につけ、問題を解決している。	興味、関心をもって主体的に数学を見だし、発展させ、自ら進んで授業に積極的に取り組んでいる。また、提出物をきちんと出している。

3. 学習計画および学習内容等

期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	○幾何編（体系数学1） 第4章 三角形と四角形	・5単位のうち1単位を習熟度別演習とする。 1. 二等辺三角形 2. 直角三角形の合同 3. 平行四辺形 【習熟度別演習】 1年生の復習、実力テスト対策	定期試験 提出物 小テスト 授業への取り組み
	5	第4章 三角形と四角形	4. 平行線と面積 5. 三角形の辺と角 【習熟度別演習】 1年生の復習、実力テスト対策	
	6	○代数編（体系数学2） 第6章 確率と標本調査 第1章 式の計算	1. 場合の数 2. 事柄の起こりやすさと確率 3. 確率の計算 4. 標本調査 1. 多項式の計算 2. 因数分解 【習熟度別演習】 1年生の復習、実力テスト対策	
	7	第1章 式の計算	3. 式の計算の利用 【習熟度別演習】 1年生の復習、実力テスト対策	

2	9	第2章 平方根 第3章 2次方程式	1. 平方根 2. 根号を含む式の計算 3. 有理数と無理数 1. 2次方程式の解き方 2. 2次方程式の利用 【習熟度別演習】 1年生の復習, 実力テスト対策	定期試験 提出物 小テスト 授業への取り組み
	10	第3章 2次方程式 第4章 関数 $y = ax^2$	2. 2次方程式の利用 1. 関数 $y = ax^2$ 【習熟度別演習】 1年生の復習, 実力テスト対策	
	11	第4章 関数 $y = ax^2$	2. 関数 $y = ax^2$ のグラフ 3. 関数 $y = ax^2$ の値の変化 【習熟度別演習】 1年生の復習, 実力テスト対策	
	12	第4章 関数 $y = ax^2$	4. 関数 $y = ax^2$ の利用 【習熟度別演習】 1年生の復習, 実力テスト対策	
3	1	○幾何編 (体系数学2) 第1章 図形と相似	1. 相似な図形 2. 三角形の相似条件 【習熟度別演習】 1年生の復習, 実力テスト対策	定期試験 提出物 小テスト 授業への取り組み
	2	第1章 図形と相似	3. 平行線と線分の比 4. 中点連結定理 5. 相似な図形の面積比, 体積比 【習熟度別演習】 1年生の復習, 実力テスト対策	
	3	第1章 図形と相似	6. 相似の利用 【習熟度別演習】 1年生の復習, 実力テスト対策	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	理科（物理・地学）	2	中学2学年 全クラス

使用教科書	副教材
『未来へ広がるサイエンス2』（啓林館）	『中学錬成テキスト 理科 2年』（日本教材出版）， 『最新理科便覧神奈川県版』（浜島書店）

1. 学習の目標

様々な現象に疑問を持ち，実験から原理を学び，論理的に現象を理解する。さらに，授業での知識を問題演習により整理し定着する。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
現象を論理的に説明できている。さらに，表・グラフの整理，数値を用いた問題を解いている。	物理的な思考を身に付けている。さらに，表・グラフの整理では数値を用いて表現できている。また，現象を論理的に説明できている。	授業に積極的に取り組む。さらに，提出物を提出できている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	地球の大気と天気の変化	空気中の水の変化 ・霧のでき方 ・雲のでき方 ・空気中に含まれる水蒸気の量	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	5	地球の大気と天気の変化	・地球をめぐる水 ・地球環境の変化による天候の変化 天気の変化と大気の動き ・風がふくしくみ ・大気の様子	
	6	地球の大気と天気の変化	・大気の動きによる天気の変化 大気の動きと日本の四季 ・陸と海の間の大気の動き ・日本の四季の天気 地学分野の総復習（問題演習）	
	7	地球の大気と天気の変化	地学分野の総復習（問題演習）	
2	9	電流の性質とその利用	電流の性質 ・電流が流れる道すじ ・電流の規則性 ・電圧の規則性 ・電圧と電流の関係 ・電流のはたらきを表す量	授業への取り組み 提出物 定期試験
	10	電流の性質とその利用	電流の正体 ・静電気 ・静電気と電流の関係 ・電流の正体	
	11	電流の性質とその利用	電流と磁界 ・磁石の性質とはたらき ・電流が作る磁界 ・モーターのしくみ	
	12	電流の性質とその利用	・発電機のしくみ	

3	1	中学2年次の総復習	(物理分野) 問題演習プリントを用意する (地学分野) 内容確認小テストを行う	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	2	中学2年次の総復習	(物理分野) 問題演習プリントを用意する (地学分野) 内容確認小テストを行う	
	3	中学2年次の総復習	(物理分野) 問題演習プリントを用意する (地学分野) 内容確認小テストを行う	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
保健体育	保健体育	3	中学2学年 全クラス

使用教科書	副教材
『最新 中学校 保健体育』(大修館書店)	『健康手帳』(神奈川県学校保健連合会)

1. 学習の目標

運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、自己の課題に合った運動の計画を立て、適切に行うことで体力と技能を高められるようにする。また、運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に考えたことを伝える力を養う。さらに、仲間と助け合い、協力しながら健康・安全に留意し自己の最善を尽くして自主的に運動に親しむ態度を養う。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
健康・安全や各種の運動の特性に応じた知識と技能を理解・習得している。課題の解決のために適切な方法を理解し技能や体力を高めることができる。	競争や協働を通して自己や仲間の課題を発見し学習方法を工夫している。よりよい解決に向けて考えを適切に表現し、課題解決に結びつけている。	健康・安全に留意し一人ひとりの違いを認め、自主的に運動に取り組もうとしている。仲間の補助や助言をしたりして、仲間の学習を援助し課題を解決しようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	○体づくり運動 ・ラジオ体操 ・集団行動 ○新体力テスト	ラジオ体操第一 整列、方向転換、列の整とん・増減、人員点呼、行進 50M 走、持久走、ハンドボール投げ、立ち幅跳び、握力、長座体前屈、反復横跳び、上体起こし	授業への取り組み 実技試験 行動観察 提出物 定期試験
	5	○新体力テスト ○武道（選択制） ・剣道 ・柔道 ○保健 ・生活習慣の健康への影響	50M 走、持久走、ハンドボール投げ、立ち幅跳び、握力、長座体前屈、反復横跳び、上体起こし 礼法、構え、足さばき、素振り等 礼法、受け身、体さばき等 1 生活習慣病 2 生活習慣病の予防 3 がんとその予防 4 生活習慣病・がんの早期発見とその回復 ※保健は天候に応じ適宜実施	
	6	○水泳 ・クロール ・(平泳ぎ) ※習熟度に合わせて実施 ○保健 ・生活習慣の健康への影響	・けのび、板キック、クロール ・面かぶりクロール ・キック 5 喫煙と健康 6 飲酒と健康 7 薬物乱用と健康 8 喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけと対処 ※保健は天候に応じ適宜実施	

	7	○水泳 ・クロール ・(平泳ぎ) ※習熟度に合わせて実施	・けのび, 板キック, クロール ・面かぶりクロール ・キック	
2	9	○器械運動(男子) ・跳び箱 ○球技(女子) ・Tボール ○ダンス ・ソーラン節 ○保健 ・けがの防止と応急手当	開脚とび, 台上前転等 キャッチボール, 打撃, 守備, 試合等 オリジナルパートの創作等 1 けがの原因と防止 2 交通事故の実態と原因 3 交通事故の防止 ※天候に応じ適宜実施	授業への取り組み 実技試験 行動観察 提出物 定期試験
	10	○ダンス ・ソーラン節 ○保健 ・けがの防止と応急手当	オリジナルパートの創作等 4 自然災害によるけがの防止 5 応急手当の意義と基本 6 心肺蘇生法の流れ ※天候に応じ適宜実施	
	11	○陸上競技(男子) ・走り幅跳び ○器械運動(女子) ・跳び箱 ○保健 ・けがの防止と応急手当	助走, 踏み切り, 空中動作, 着地, 記録会等 開脚とび, 台上前転等 7 心肺蘇生法(実習) ※天候に応じ適宜実施	
	12	○保健 ・けがの防止と応急手当	8 止血法, 包帯法, 固定法(実習) ※天候に応じ適宜実施	
3	1	○陸上競技 ・長距離走 ○体育理論 ・運動やスポーツの効果・ 学び方・安全	タイム計測, ペース走等 1 運動やスポーツの体と心への効果 体力を高めよう 2 運動やスポーツの学び方 ※天候に応じ適宜実施	授業への取り組み 実技試験 行動観察 提出物 定期試験
	2	○球技(男子) ・Tボール ○陸上競技(女子) ・走り幅跳び	キャッチボール, 打撃, 守備, 試合等 助走, 踏み切り, 空中動作, 着地, 記録会等	
	3	○体育理論 ・運動やスポーツの効果・ 学び方・安全	3 運動やスポーツの安全なおこない方 ※天候に応じ適宜実施	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	理科(化学・生物)	2	中学2学年 全クラス

使用教科書	副教材
『未来へひろがる サイエンス2』(啓林館)	『中学実力錬成テキスト理科2年新訂版』(日本教材出版) 『最新理科便覧神奈川県版』(浜島書店)

1. 学習の目標

物質を分解するとどうなるか、分子・原子について理解する。物質の化学反応について、そのしくみと質量・熱の変化について理解する。生物の基本単位である細胞を理解し、さらに動物の生活や、からだのつくりの多様性と共通性を理解する。動物が、外界からの刺激に対してどのように受け取り反応しているか、また、からだの働き・動きについて理解する。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
科学的な事柄・現象に関する観察・実験の技能を習得し、観察・実験などを通して、科学的な事柄・現象に関する基本的な概念や原理・法則を身につけている。	科学的な事柄・現象の中に問題を見だし、事象を論理的に考察することにより問題を解決し、科学的に判断することができる。また、それらを的確に表現することができる。	科学的な事柄・現象に興味を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的な見方を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	【化学分野】 1章 物質の成り立ち	・物質を加熱したときの变化について炭酸水素ナトリウムを例にし、水溶液に電流をながしたときの变化について水を例にして学ぶ。	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	5	2章 物質の表し方	・原子・分子について学び、また分子の結びつきについて理解する。 ・物質を表す記号と化学式について学ぶ。 ・物質が結びついて、新しい物質ができる化学変化について学ぶ。	
	6	3章 さまざまな化学変化	・物質が燃えるときの化学変化のしくみを理解する。 ・記号をつかって化学反応を表すことを知る。 ・化学反応式の意味について学習する。	
	7	4章 化学変化と物質の質量	・化学変化の起こる前後で、物質の質量がどう変化するかを調べ、質量保存の法則を理解する。 ・金属を熱したときの質量変化を調べ、その結果から金属の質量と加増する酸素の割合を調べ、原子どうしが決まった割合で結びつくことを理解する。	
2	9	【生物分野】 1章 生物の体をつくるものの	・細胞は生命体の基本単位ということを理解し、細胞のつくりを学ぶ。	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト

2	10	2章 植物の体のつくりと はたらき	・光合成と呼吸のはたらきやしぐみについて学ぶ。 ・光合成や呼吸に伴う植物体内での物質移動について、植物のつくりを通して学ぶ。	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	11	3章 動物の体のつくりと はたらき	・動物は食物をどのように取り入れ、吸収し、エネルギーを得ているのか、そのしぐみを理解する。 ・動物の呼吸や、動物が食物を吸収した後、不要な物質をどのように排出しているのかを学ぶ。	
	12	3章 動物の体のつくりと はたらき	・物質を運ぶ循環系について学ぶ。	
3	1	4章 動物の行動のしぐみ	・動物が外界からの刺激を受けてから反応をするまでの経路を学ぶ。各感覚器官で受け取り、その刺激が脳や脊髄に伝えられ、筋肉において反応が起こるまでのしぐみを理解する。	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	2	問題演習 1	・一年間学習したことを、形成的・横断的に理解する。	
	3	問題演習	・一年間学習したことを、形成的・横断的に理解する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
音楽	音楽	1	中学2学年 全クラス

使用教科書	副教材
『中学生の音楽 2・3上』（教育芸術社） 『中学生の器楽』（教育芸術社）	なし

1. 学習の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音や音楽への興味・関心を高め、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。また、多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造や曲の背景との関わり、文化や歴史について理解している。 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱法、奏法、技能を身に付け、表している。	音楽を形作っている要素や構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように表すかについて思いや意図をもっている。知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、極夜演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わっている。	音楽の構造、文化、歴史に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	歌唱	「翼をください」について学習する。 パートの役割と重なり方について学習する。 三部合唱を通して、ハーモニーの美しさを習得する。 反復記号について学習する。	授業への取り組み 提出物 定期試験 実技試験
	5	歌唱	「夏の思い出」について学習する。 曲の形式や拍子、強弱記号などについて学習する。 作詞者、作曲者について学習する。 歌詞や曲想、情景などを理解する。	
	6	鑑賞	「交響曲第5番」について学習する。 作曲者や楽曲について理解する。 楽器の種類やオーケストラについて学習する。	
	7	実技試験	「夏の思い出」の歌唱試験を行う。	
2	9	楽典 創作	音符や休符、記号や用語について学習する。 創意工夫して短い曲を創作する。	授業への取り組み 提出物 定期試験 実技試験
	10	器楽	アルトリコーダーについて学習する。 アルトリコーダーの歴史や各部の名称を学習する。 演奏時の姿勢や構え方、タンギングなどの奏法を習得する。	
		合唱	合唱コンクール課題曲、自由曲の練習をする。 各パートの音取りを中心に行う。	
	11	鑑賞 合唱	オペラ「アイーダ」について学習する。 作曲者や楽曲について理解する。 合唱コンクール課題曲、自由曲の練習をする。 合唱のハーモニーを習得する。	
	12	実技試験	アルトリコーダーの実技試験を行う。	

3	1	合唱	合唱コンクール課題曲，自由曲の練習をする。 強弱などの表現を習得する。	授業への取り組み 提出物 定期試験 実技試験
	2	合唱 鑑賞	合唱コンクール課題曲，自由曲の練習をする。 曲全体の表現の仕方を工夫する。 世界の諸民族の音楽について学習する。 諸民族の様々な音楽の特徴と，多様性を理解する。	
	3	実技試験 復習	合唱コンクール課題曲の実技試験を行う。 1年間のまとめを行う。	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
美術	美術	1	中学2学年 全クラス

使用教科書	副教材
『美術2・3』（光村図書）	なし

1. 学習の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

また、造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。さらに美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培うようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	【絵画】遠近法 レオナルドとその時代 ・線遠近法 ・空気遠近法	レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」を鑑賞し、作者の表現の意図や工夫を感じ取る。	授業への取り組み 提出物 出席状況 定期試験
	5	【絵画】遠近法 ・一点透視図法 ・二点透視図法 ・三点透視図法	遠近法について学ぶ。透視図法の作図法を用い、作品制作を行う。	
	6	【絵画】遠近法 ・一点透視図法 ・二点透視図法 ・三点透視図法	遠近法について学ぶ。透視図法の作図法を用い、作品制作を行う。	
	7	【絵画】遠近法 ・一点透視図法 ・二点透視図法 ・三点透視図法	遠近法について学ぶ。透視図法の作図法を用い、作品制作を行う。	

2	9	【デザイン】 ・平面構成	基本的な色の世界について学ぶ。	授業への取り組み 提出物 出席状況 定期試験
	10	【デザイン】 ・平面構成	直線や円など単純な形態を組み合わせた構成を考え、「同一，類似，補色の配色」を学ぶ。	
	11	【デザイン】 ・平面構成	ポスターカラーの使い方を学び，配色について学習する。	
	12	【デザイン】 ・平面構成	色相による配色をもとに平面構成をデザインする。	
3	1	【技法】 さまざまな表現 ・コラージュ	コラージュ技法を使って作品を制作する。	授業への取り組み 提出物 出席状況 定期試験
	2	【技法】 さまざまな表現 ・コラージュ	コラージュ技法を使って作品を制作する。	
	3	【技法】 さまざまな表現 ・コラージュ	コラージュ技法を使って作品を制作する。	

※ 上記の内容は，各クラスの時間割によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	英語	6	中学2年 全クラス

使用教科書	副教材
『NEW TREASURE STAGE 1』(Z会出版) 『NEW TREASURE STAGE 2』(Z会出版) 『Sunshine English Course 1』(開隆堂) 『Sunshine English Course 2』(開隆堂)	『NEW TREASURE STAGE 1 文法問題集』(Z会出版) 『NEW TREASURE STAGE 1 英単語』(Z会出版) 『NEW TREASURE STAGE 2 文法問題集』(Z会出版) 『NEW TREASURE STAGE 2 英単語』(Z会出版)

1. 学習の目標

正しい英語の音を理解し、聴き分け、発音できるようになる。その結果、リーディング・ライティング力と差のないリスニング、スピーキング力を身に着ける。また、基本的な英文法を理解した上で、反復トレーニングを行い、実践的な運用力を獲得する。さらに短時間で情報を読み取り、自分の考えを論理的に伝えられるようになる。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
外国語の4技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。	身近な話題について、他教科等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えを適切に伝え合っている。	他者を尊重し、聞き手・読み手に配慮しながら、身に着けたことを活用して、自分の意見や考えなどを表現しようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	復習 There is/are 構文 比較	- There is/are 構文, 比較の文法事項を理解する。 - 否定文, 疑問文の作り方を理解する。	定期試験 提出物 小テスト 授業への取り組み
	5	比較	同格, 比較級, 最上級, それらを含んだ疑問文を学ぶ。	
	6	接続詞 感嘆文	- 等位接続詞の用法をマスターする。 - 時を表す従位接続詞を覚える。 3つの代表的な従位接続詞 (if, because, though) を覚える。 - 名詞節を作る that の用法をマスターする。 - How と What を使い分ける。	
	7	復習		
2	9	助動詞表現 文型	- 助動詞を使った定型的な慣用表現を覚える。 - 品詞の働きを理解する。 - 文の要素と修飾語を分けて考える。 - 各文型の典型的な英文に慣れ, 文型の感覚を身につける。	定期試験 提出物 小テスト 授業への取り組み
	10	不定詞	- 不定詞の3用法をそれぞれ理解する。 - それらを正しく識別できるようになる。	
	11	動名詞	- 動名詞を含む名詞のカタマリが, 文中でどのような働きをしているのかを正しくつかむ。 - 定型的な慣用表現を覚える。	
	12	受動態	- 受動態を使って, 基本的な文を作れるようになる。 - 能動態と受動態の変換が自在にできるようになる。 - 疑問詞が入っていたり, SV00 や SVOC の受動態など, 応用的な文についても認識できるようになる。	

3	1	現在完了形 名詞の種類 不定代名詞	・基本イメージを掴む。 ・3用法を認識する。 ・現在完了形と現在完了進行形を使い分ける。 ・様々な名詞の種類と用法が理解できる。 ・様々な不定代名詞の意味と用法が理解できる。	定期試験 提出物 小テスト 授業への取り 組み
	2	再帰代名詞 後置修飾 分詞の形容詞用法	・再帰代名詞の用法が理解できる。 ・名詞が後ろから修飾されがちなことを認識する。 ・前置修飾と後置修飾を使い分ける。 ・現在分詞と過去分詞の違いを理解する。	
	3	復習		

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
技術・家庭	家庭分野	1	中学2学年 全クラス

使用教科書	副教材
『新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生をめざして』（東京書籍）	なし

1. 学習の目標

中学生の食生活と栄養について健康にいい食習慣について考え、栄養素の種類と働きを知り、必要な栄養の特徴について理解する。さらに、日常食の献立や食品の選び方、調理法、地域の食文化について理解する。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
自分の生活について関心を持ち、充実・向上を目指し主体的に取り組もうとする実践的な態度を身に付けている。	さまざまな分野で課題を見いだしてその解決を目指し自分なりに工夫し、創造している。	生活や技術に関する知識や技能を身につけ生活を充実・向上するために主体的に実践しようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	住生活と自立	住まいの役割を知る。快適に過ごすための室内条件を知り、自身の生活環境を見直す。室内環境を整える方法を理解し、生活に取り入れる。	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物 出席状況
	5	現代の食生活と課題	現代の食生活の現状および課題を把握し、健康な心身をつくるための食生活とは何かを考える。	
	6	中学生に必要な栄養	栄養素の種類と働き、五大栄養素、水の働きなど食べた食品がどのような働きをするのか理解する。	
	7	食品にふくまれる栄養	自分の好きな食品にはどのような栄養素が含まれているのか成分表で調べ理解する。	
2	9	献立作りと食品の選択	「6つの食品群」による摂取量の目安を基に食品バランスの良い1日分の献立を立て、家族の食事について考える。	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物 出席状況
	10	食品にふくまれる栄養	中学生に必要な栄養の特徴を理解し、「6つの食品群」、食品摂取量の目安について理解する。	
	11	生鮮食品と加工食品の特徴	身近な食品の品質を見分けること、用途に応じて食品を適切に選択できるように理解する。	
	12	食品の選択と購入	食品表示の見方、五感、昔からの知恵等により、無駄のない食品の取り扱いを考え理解する。	
3	1	調理と食文化	安全と衛生に気を付けて、日常食の調理をすること、食品の調理上の性質を知り、適切に調理することを理解する。	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物 出席状況
	2	日本の食文化	日本のさまざまな行事食を学び、食文化について理解する。	
	3	よりよい食生活を目指して	現在のわが国の食についての問題点、自分の食生活をみつめ改善点を考える。食の安全について考える。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。
調理実習の実施を予定している。

教科名	科目名	単位数	年・組
技術・家庭	技術分野	1	中学2学年 全クラス

使用教科書	副教材
『新しい技術・家庭 技術分野』（東京書籍）	なし

1. 学習の目標

生活を支えるエネルギー変換について知る。また、実習を通して、仕組みや工具の使い方を学ぶ。さらに、コンピュータを通して計測・制御のプログラミングによる問題解決を学ぶ。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス 電気エネルギーの変換とその利用	エネルギー変換について知る。 エネルギー変換と利用について考える。	授業への取り組み 出席状況 提出物 定期試験
	5	発電の仕組みと特徴	エネルギー変換効率を知る。 発電機の原理を知る。 さまざまな発電方法を知る。 電気回路について考える。 電気機器を安全に使用する	
	6	電気を供給する仕組み	電源の種類を知る。 送電・配電を知る。	
	7	電気回路について考えよう	電気エネルギーを利用する仕組みを知る。	
2	9	電子部品を使った回路の製作準備	機器に使われている部品を知る。 回路計の使い方を知る。	授業への取り組み 出席状況 実技試験 提出物 定期試験
	10	回路実習 製作（1）	電子部品の働きを知る。 はんだづけ作業をおこなう。	
	11	製作（2）	基盤の検査をおこなう。 組み立て、完成する。	
	12	電気機器を安全に使用する ための技術	電気部品の定格を知る。 電気を安全に使うための技術の工夫を知る。	
3	1	計測・制御のプログラミング による問題解決	計測・制御システムについて学ぶ。 問題解決のための課題を設定する。	授業への取り組み 出席状況 提出物 定期試験
	2	プログラム制作	システムを構想し、プログラムを制作する。	
	3	社会の発展と技術の最適化	これからのエネルギー変換の技術と情報の技術の最適化について考える。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

令和7年度 道徳 科 シラバス (中学校)

教科名	科目名	単位数	年・組
道徳	道徳	1	中学2学年 全クラス

使用教科書	副教材
『中学道徳2 きみが いちばん ひかるとき』 (光村図書出版)	なし

1. 学習の目標

よりよい生き方とは、どのようなものかを考える。道徳的な問題を見つけ、その問題について考えを深め、自分で生きていけるようにする。また、道徳を学ぶことで、多様な感じ方や考え方、ものの見方を身につける。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
自分の意見を冷静に、秩序立てて表明できている。	他人の意見を尊重し、多目的に物事を見て判断する姿勢が身についている。	自ら積極的に考える姿勢を持てている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	1 導入	道徳科の学びの見通しを立て、これからの学びを広げたり、深めたりする態度を身につける。	授業への取り組み 提出物 行動観察 観点別評価は行わない。
		2 自主、自律、自由と責任	自ら考えて行動するとはどういうことかについて考える。	
		3 希望と勇気、強い意志	何かをやり遂げようとするとき、その根底にあるのはどんな思いかを考える。	
	5	4 相互理解、寛容	考え方や立場の違いを理解し合うためにはどんなことが大切なのかを考える。	
		5 生命の尊さ	「生きている」ことの尊さについて考える。	
		6 思いやり、感謝	日々の生活で人と関わりながら生きていくのに大切なことは何かを考える。	
		7 向上心、個性の伸長	自分らしく生きるとはどういうことかを考える。	
	6	8 公正、公平、社会正義	誰もが安心して過ごせる社会にするためには、どんなことが大切かについて考える。	
		9 友情、信頼	友情を育むために大切なことは何かを考える。	
		10 よりよい学校生活、集団生活の充実	集団の一員として、よりよくあるために大切なことは何かを考える。	
	7	11 友情、信頼	「友情」とはどのようなものかを考える。	
		12 よりよく生きる喜び	人のもつ強さや弱さを見つめながら、よりよく生きるために大切にしたいことを考える。	
2	9	13 礼儀	礼儀にはどんな心が表れるのかを考える。	授業への取り組み 提出物 行動観察 観点別評価は行わない。
		14 勤労	働くことのさまざまな意義について考える。	
		15 社会参画、公共の精神	社会の一員として地域に関わっていくには、どんなことが大切なのかについて考える。	
		16 自然愛護	自然を守るとはどういうことかについて考える。	
		17 節度、節制	インターネットとうまく付き合っていくための習慣について考える。	

	10	18 相互理解, 寛容 19 生命の尊さ 20 国の伝統と文化 21 遵法精神, 公德心	人とのコミュニケーションの取り方について考える。 「命」について考え, かけがえのない生命を尊重するところについて学ぶ。 伝統的な文化を受け継いでいくために大切なのはどんなことかを考える。 集団や社会で何かを決めようとするときに大切なことは何かを考える。	
	11	22 遵法精神, 公德心 23 郷土の伝統と文化 24 相互理解, 寛容 25 国際理解, 国際貢献	複数の人と話し合っ何て何かを決める意義や効果について考える。 ふるさとを思う心について考える。 立場の異なる人と関わるときに大切なことは何かについて考える。 他国の人々と共に生きていくのに大切なことは何かを考える。	
	12	26 公正, 公平, 社会正義	差別や偏見のない社会をつくるために大切なことは何かを考える。	
3	1	27 公正, 公平, 社会正義 28 向上心, 個性の伸長 29 真理の探究, 創造	社会の中で他者とよりよく関わっていくことについて考える。 自分のよさを見つめ, 向上心を持ち, 個性を伸ばしていこうとする心情を理解する。 新しいものを生み出していくときに大切なことは何かについて考える。	授業への取り組み 提出物 行動観察 観点別評価は行わない。
	2	30 よりよく生きる喜び 31 感動, 畏敬の念 32 家族愛, 家庭生活の充実	自分の弱さと向き合い, 生きていくことについて考える。 「感動する心」を見つめ, 人間の力を超えるものに対する感動や畏敬の念を大切にしようとする心情を理解する。 家族のつながりとはどんなものかについて考える。	
	3	33 自主, 自律, 自由と責任 34 生命の尊さ, 学びの振り返り	何かを判断するときにはどんなことを大切にすればよいのかについて考える。 亡くなった祖父から孫へのメッセージを通して, 「生きる」ということについて考える。 1年間の道徳で学んだことを振り返り, これからの自分の生き方について考えを深める。	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
総合的な学習の時間		2（70時間）	中学2学年 全クラス

使用教科書	副教材
なし	なし

1. 学習の目標

積極的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。	実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら積極的に社会に参画しようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	国際理解教育	ネイティブ教員と日本人教員によるチームティーチングで、これからの国際化社会に対応すべく英語の運用能力アップ、コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語活動に専念するのではなく、言語の底に流れる文化も学ぶ。	授業への取り組み 提出物 行動観察
	5	国際理解教育	ネイティブ教員と日本人教員によるチームティーチングで、これからの国際化社会に対応すべく英語の運用能力アップ、コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語活動に専念するのではなく、言語の底に流れる文化も学ぶ。	
	6	国際理解教育	ネイティブ教員と日本人教員によるチームティーチングで、これからの国際化社会に対応すべく英語の運用能力アップ、コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語活動に専念するのではなく、言語の底に流れる文化も学ぶ。	
	7	国際理解教育	ネイティブ教員と日本人教員によるチームティーチングで、これからの国際化社会に対応すべく英語の運用能力アップ、コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語活動に専念するのではなく、言語の底に流れる文化も学ぶ。	
2	9	国際理解教育	ネイティブ教員と日本人教員によるチームティーチングで、これからの国際化社会に対応すべく英語の運用能力アップ、コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語活動に専念するのではなく、言語の底に流れる文化も学ぶ。	授業への取り組み 提出物 行動観察
	10	国際理解教育	ネイティブ教員と日本人教員によるチームティーチングで、これからの国際化社会に対応すべく英語の運用能力アップ、コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語活動に専念するのではなく、言語の底に流れる文化も学ぶ。	

		職業体験	1年次の職業学習をもとに、実社会で働くことで社会性を養い、礼儀を身に付けるとともに勤労の意義や尊さを知り、正しい職業観を培う。この経験をふまえ、今後の進路について考える機会とする。 (事前・事後指導を含む)	
	11	国際理解教育	ネイティブ教員と日本人教員によるチームティーチングで、これからの国際化社会に対応すべく英語の運用能力アップ、コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語活動に専念するのではなく、言語の底に流れる文化も学ぶ。	
	12	国際理解教育	ネイティブ教員と日本人教員によるチームティーチングで、これからの国際化社会に対応すべく英語の運用能力アップ、コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語活動に専念するのではなく、言語の底に流れる文化も学ぶ。	
3	1	国際理解教育	ネイティブ教員と日本人教員によるチームティーチングで、これからの国際化社会に対応すべく英語の運用能力アップ、コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語活動に専念するのではなく、言語の底に流れる文化も学ぶ。	授業への取り組み 提出物 行動観察
	2	国際理解教育	ネイティブ教員と日本人教員によるチームティーチングで、これからの国際化社会に対応すべく英語の運用能力アップ、コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語活動に専念するのではなく、言語の底に流れる文化も学ぶ。	
	3	国際理解教育	ネイティブ教員と日本人教員によるチームティーチングで、これからの国際化社会に対応すべく英語の運用能力アップ、コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語活動に専念するのではなく、言語の底に流れる文化も学ぶ。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。